

事例5-12

取組名	緊急用・井戸端用を使い分けた「グループLINE」の活用		
町会名	ながわこうげん 奈川高原町会（奈川地区）	町会 データ	・人口／36人 ・世帯数／22世帯 ・高齢化率／44.4% ・町会加入数／17世帯 ・隣組数／3
取組概要	○ 町会内の周知事項をグループLINEで共有 ○ 緊急用、井戸端用の二つのグループを設け、内容によって使い分けて運用		

背景・課題

- ・ 町会内の会議や作業の案内は、すべて紙資料の配布によっていたため、発信者（町会長）の負担が大きかった。

経過・取組内容

- ・ 町会の総会時、町会長からグループLINEを利用した情報共有を提案。町会の世帯数が少なく、ほとんどの住民がスマートフォンを利用していることから賛同を得た。
- ・ 「緊急用」と普段利用に供する「井戸端用」の2種類のグループを設け、運用を開始。各グループには、ほぼ全世帯が参加し、複数人登録する世帯もある。
- ・ 「緊急用」は、クマの目撃情報、防犯灯の不良、倒木、台風、通信障害など、緊急に周知・連絡しなければならない情報を出すこととし、行政機関等への通報は、町会長が状況によって判断している。
- ・ 「井戸端用」は、清掃作業、事業実施の連絡、敬老会の開催通知、通路沿いの剪定作業の実施等のお知らせを掲載するほか、住民同士の日常的な意見交換も可能としている。
- ・ 数年運用していることから、各グループに掲載する情報も確立されている。
- ・ なお、スマートフォンを持たない高齢者（1名）に対しては、安否確認を兼ねて町会長が紙資料を届けている。

成果・今後の展望等

- ・ 紙資料の配布の手間が減ったことで、町会長の負担が軽減されたと同時に、町会内に周知したい情報を遅滞なく、迅速に周知することが可能となった。
- ・ 公会堂等に出ることが少なくなり、住民の負担も軽減された。
- ・ 既読数を確認することで、安否確認も同時にできるようになった。
- ・ 回覧物については、紙で読みたいとの要望があったことから、当面は紙回覧を継続するが、いずれはデジタル配信にしたいという意見もある。

【ポイント】

- ▼ グループLINEを活用し、町会内の連絡を迅速化
- ▼ 緊急用、井戸端用と二つのグループを使い分けることで情報を整理